

県奨励、高温耐性品種のコメ

県農業技術センターが開発したコメの高温耐性品種「清流のめぐみ」の本格普及を目指し、美濃加茂市や周辺のコメ生産者らが研究会を設立した。同市前平町のめぐみの農業協同組合（JAめぐみの）みのかも営農経済センターで設立会議が開かれた。

(中村芳紀)



設立された「清流のめぐみ研究会」の会員ら＝美濃加茂市前平町、JAめぐみのみのかも営農経済センター

美濃加茂市の生産者ら 本格普及目指す

「清流のめぐみ」研究会設立

清流のめぐみは、夏の高温で米粒が白く濁る「白米熟粒」などの高温障害に強く、倒れにくいのが特長。

清流のめぐみは、夏の高温で米粒が白く濁る「白米熟粒」などの高温障害に強く、倒れにくいのが特長。

ぐみの水田農業担い手協議会みのかも支部」では地域の新たな主力品種に育て、高い品質や安定生産技術の早期確立に向けた生産者間の情報交換を進めようと、美濃加茂市、坂祝町、富加町の八つの生産法人や個人で研究会を立ち上げた。会員の清流のめぐみの作付面積は12・8㌔に上る。

研究会の設立はJAめぐみの管内では初めて。活動にはJAめぐみのや全国農業協同組合連合会県本部（JA全農岐阜）、県可茂農林事務所が協力する。

設立会議では趣旨などの説明があり、座長に春見ライス（美濃加茂市蜂屋町上峰屋）の春見秀則社長（56）が就任。「近年の異常気象による収量や品質への影響を考えると、耐暑性品種への取り組みは重要。みんながアイデアを出し合いなが

ら進めていきたい」と抱負を述べた。

今年には現地研修などを行うほか、11月のみのかも市民祭りで新米の販促イベントを展開するなどの活動計画を立てた。

画面を承認。意見交換では、肥料の与え方など生育条件の違いによる草丈の成長や新しい茎が出る分げつなど、生育状況の報告があった。